

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	漆器製品の開発、および海外展開事業
事業主体 (連絡先)	任意団体 ゴー・グローカル (土屋 090-1733-2441)
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,312,326 円 (うち支援金: 1,849,000 円)

事業内容

伝統産業の衰退が著しく、漆器産業も例外ではない。自ら変化を起こして開拓できる規模の事業者以外は、じわりじわりと減っていく受注量に不安を覚えながら日々の仕事をしているのが現状である。

本事業は、漆器産業の需要を増やし、木曾平沢地区に仕事を増やすことを目的として実施した。具体的には、需要増のひとつの可能性を探るため、海外展開を視野に入れた製品企画、量産に備えるための試作品の製作、海外でのマーケティング営業戦略方針の検討を行った。



【形状確定した試作品一部】

【目標・ねらい】

- ①海外向け製品企画と試作製作
- ②海外需要調査、営業戦略検討
- ③漆器製品の需要向上を狙う
- ④木曾の漆器職人と弟子の仕事増

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①世界で親しまれるワインに目を付け、『ワインと漆器のまち、塩尻』に合った地域名産品としてボトルストッパーを企画。木地作りから塗りまで試作を繰り返すことで仕入れ先や道具を確定し、量産体制を整えた。
- ②欧州マーケティングコンサルタントへ漆の特徴、現状を説明、協働可能性があるメーカーや製品を提示してもらい、また、生産側で必要になる体制の提案を受けた。
- ③皿や椀など従来の漆器製品ではなく、多くの家庭に普及していない、嗜好品で高額でも買う人が多いワインに使う実用品であるため需要増は見込める。コレクター性をもたせることで更に需要増は狙えると考えられる。
- ④本事業に協力してくれた木地師、彫師、塗師の3名は、正に量産に入るところで、塗師の弟子はまだ塗れないが、下準備や仕入れのための仕事が既に増えている。

※自己評価【 B 】

【理由】①③ではAを付けたい。しかし②で、海外展開をすれば小規模事業者では対応不可な事務工数がかかると分かり、④で増えるのが本来の漆器仕事でなく事務作業、という葛藤が生じる。小規模事業者が海外に挑める仕組みができて初めて②④が成立するため、実質的に仕事は増えても、B評価。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

①で量産に向けた備えができ、海外向けには日本酒用のボトルストッパーとして開拓先を探す。まずは、県内にあり海外輸出をしている酒蔵を当たる予定である。③嗜好品であるワイン、そして塩尻市が名産として誇る漆器とワインに因んだ、地域の逸品である。特別限定コレクター品、ギフトとしての可能性を秘めているため、他の漆器店や職人も自由に製作して良い旨の情報拡散をしていく。②で海外に需要有りと分かっても、④の狙い通り職人と弟子の仕事が確保できそうだとした場合、海外展開に伴う大幅な事務工数増の問題は残る。仕組み的に解決する検討に入る。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

- 「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
- 「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある